

## 「<sup>おおと</sup>大宇都老人クラブ親和会」

熊毛郡南種子町中之上 2 1 1 4

発表者：茅切 安雄



只今紹介をいただきました茅切でございます。

まずは、地域の概要を簡略に申し述べたいと思います。既にご承知に方もおられると思いますが、461年前南種子町の最南端門倉岬という海岸にポルトガル人を乗せた船が漂着し、鉄砲が伝えられました。この岬から延々約4キロに亘り白砂青松の風光明媚な海岸線が連

なり、その先に、現代科学の粋を集めたロケット基地があり、つい1週間前打ち上げが成功しまして正に宇宙に一番近い町となっています。又近年、温泉の掘鑿が行われ町営を含め三つの温泉があり、町民の癒しの場となっております、社協のデイサービス開設による福祉と人情の豊かさと併せて、潤いに満ちた住みよい町であります。

それでは早速本題に入ります。私たちの老人クラブは南種子町のほぼ中央に位置し、戸数257戸、人口670人で構成されている大宇都公民館の中の老人クラブとして位置づけされています。会員は女性47名、男性35名の計81名ですが、病弱や寝たきりの方も多く、その外にホテ



ル業者、建設業、商業、農業経営者等の現役組が多く、全ての会員がそろって活動することには困難性もあります。このような中であって、昨年2月、南種子町の生涯学習大会が開催された折、柳谷の豊重先生の基調講演を拝聴する機会に恵まれ、大きな感動を覚えました。そこで、私達も何かを立ち上げようということになりましたが、組織としての生産活動はできませんが、高齢者として出来る活動を今までより一層充実したものにしたいと次のような目標を定めました。

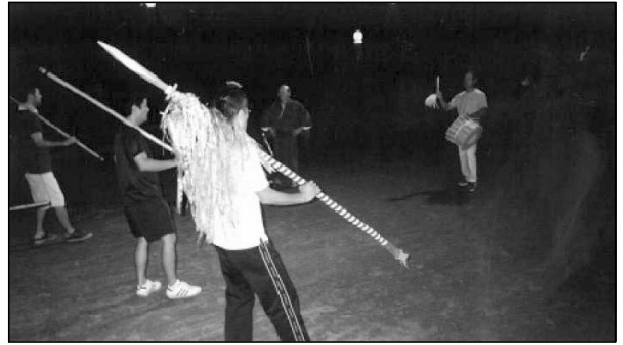


まず目標ですが、高齢者の持っている経験や知恵を生かし、地域を明るく豊かにする社会活動に取り組み、会員相互の友情と連帯を深め、老人クラブ及び会員自身の誇りを

高めることを目標としています。私達の年代は、あの忌まわしい太平洋戦争の真っ直中に青春を過ごし、戦後は言語に絶する苦難を克服しながら郷土復興の一翼を担ってまいりました。どこから出

た言葉か知りませんが、後期高齢者という名前をいただきましたが、誰に遠慮することなく胸を張って堂々と過ごしたいものと考えています。

初めに地域社会を明るくする活動について説明しますが、本日は時間の制約がありますのでかいつまんで申し上げたいと思います。近年人間関係が希薄になっていることが問われていることから、私達の地域の子供会をはじめ青壮年、実年、ご婦人の各組織との交流を図り、明るい生き生きとし



た地域にしようという活動であります。保育園児との七夕飾りや小学一年生との昔遊びやゲーム、学校給食を一緒にする催しとか、夏休みのラジオ体操に参加、その場を利用して交通安全や子ども110番の家、スクールガードの話などをしながら子供達と仲良くなることに努めています。



初めての試みとして中学生との郷土料理の学習を実習しました。南種子町では昔から全ての家庭で澱粉を製造し保存食としていましたが、現代は市販されるようになり家庭での製造作業はなくなっていますが澱粉を使った料理は残っています。その澱粉を使って皆一生懸命になって立派

な料理が出来上り、楽しくおいしく試食する中で、昔の食を含めて暮らしぶりなどの話しをし、子供達も真剣に耳を傾けており、まずまずの成果を修めたのではなかったかと思います。その後は登下校の折でも笑顔で挨拶する子どもも多くなりつつあります。

次に、私達の大宇都には昔から継承されている郷土芸能が四つあります。五穀豊穡の豊年祭りが行われますが、そこで伝統芸能を奉納します。若者が主軸となって参加しますが、ややもすると忘れがちな者、またオダメの合わない者などもいることから、郷土芸能は大切な文化遺産であること等を諭しながら指導を続けています。これらは私達高齢者の責務でもあると考えています。



このように若者と接することで、相互のいろいろな意見、考えを聞くことも出来、又格言にある温故知新を説くなど大変有意義な交流であります。なお今年1月12日には年初めの交流会を開催し、新年の抱負を語り、祝い酒を酌み交わして今後の交流を約束しました。



次に小グループ活動について紹介します。津々浦々で行われている老人のスポーツといえばゲートボール、グラウンド・ゴルフですが、会員それぞれ得手不得手がありまして、スポーツの不得手な

者も沢山います。そこで、易しい活動としてアツポー会と名付けて毎月第一金曜日に実施しております。「アツポー」とは種子島の方言で、アソブという意味です。ことさら堅い目標は設定せず、しゃべって、笑って、歌ってということで、先ず老人クラブの歌で会を始め、名称ゲームや健康体操、ダンス等の後、お互いに持ち寄ったオヤツで楽しいお茶やおしゃべりの時間となり、話に花の咲く楽しいグループです。

又一方では、EMボカシ作りの講習も行ったり、生ゴミの利用、ゴミの分別、ゴミステーションの清掃など学習と奉仕、そしてボカシを使った野菜作りも行い、



食の安全安心の関心の高まるなかで無農薬、有機肥料栽培に励む者も出てきてまして、百円市場に出荷する者もあり、今後に期待が持たれます。

更にボケ防止と云うことで、宮沢賢治の「雨にも負けず、風にも負けず」の詩などを大きな声で音読を行っています。暗唱が出来るよう頑張っていますが、なかなか順調に進んでいません。

このように、元気老人はいろいろな場所でいろいろなことが出来ますが、不幸にして病弱や寝たきりで社会参加が出来ず寂しい思いをしている方がいます。そのような方への友情訪問も行ってありますが、大変喜ばれています。

時間がございませんので活動の一端を述べましたが、諸行事に対し会員が積極的に参加をし、特に9月20日の社会奉仕の日や、年3回実施するクリーン作戦には、特別の事情のない限り多数の会員が参加し、その実を挙げています。昨年10月に新しく花園もつくり紫陽花と彼岸花を植えました。数年後には美しい花が咲きほこり、道行く人の目を楽ませるのではないのでしょうか。

私達は年を重ねるにつれ目や耳が不自由になり、足腰の痛みを感じるようになります。これらに負けることなく、互いにいたわり、友情と連携の輪を広げ、心も身体も健やかに過ごし、社会の一員として微力でも社会のためになるよう、発展的な活動を進めていきたいと思っております。

以上、かいつまんで申し上げましたが、私の発表を終わります。ご静聴誠に有難うございました。